

## 第8回旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

日 時：令和3年7月15日（木）

午前9時～10時30分

場 所：市役所本庁舎7階第1委員会室

### 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

#### (1) 市民アンケートについて

①これまで市民参画により議論された活用策・・・・・・・・資料1

②アンケート調査について・・・・・・・・資料2-1・2・3

4 その他

5 閉 会

「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」委員

【順不同・敬称略】

役職	氏名	所属	出欠
委員長	柳 年哉	公立鳥取環境大学 経営学部 教授	出
副委員長	福山 敬	鳥取大学 工学部 教授	出
委員	飯野 公央	島根大学 法文学部 准教授	出
委員	木田 悟史	公益財団法人日本財団 鳥取事務所 所長	出
委員	堤 洋樹	前橋工科大学 工学部 准教授	出 (Web)
委員	湯口 夏史	湯口一文税理士事務所 税理士	出

## これまで市民参画により議論された活用策

ものの機能	R2年度 市民ワークショップやアンケート等で出された活用策	R3年度 市民ワークショップで出された活用策	R3年度 市民ワークショップでの取りまとめ
A 教育・学習・芸術・文化	学生交流施設、美術館（展示機能含む）、音楽ホール、小学校、カルチャースクール、学習広場、文化的多目的ホール、図書館、専門学校、団体の事務局・練習場など	小学校統廃合用地、総合防災教育研修センター、若者の学習拠点、カルチャーセンター、美術館、多目的ホール、市民ギャラリー、音楽ホール、ミュージアム、多機能ホール、複合文化施設、コンサートホール、アート、子ども文庫、子ども喫茶、童画の展示、図書館、観光コンベンション施設、物産館など	小学校統廃合用地、若者の学習拠点、環境・防災学習の場、美術館（展示機能、市ゆかりの文化人をたたえる機能等）、多目的ホール、市民ギャラリー、歴史、文化の発信の場、ミュージアム、図書館
B 医療・福祉・健康増進	子育て支援の場所、病院もある複合施設、健康増進スポーツ施設、屋内でこどもが遊べるスペースなど		
C 憩いの場・コミュニティ	コミュニティセンター、高齢者向けサロン、イベント・行事・交流会場、地域食堂（子ども食堂）、自由に入出りできる屋内スペースなど	市民（学生等）が自由に使える施設（待つ空間・時間を使える空間）、自由に入出りできる屋内スペース、地域食堂（子ども食堂）、イベントホール、公民館、移住・定住につながる活用、鳥取ならではのキーワード、人が集まる、滞在する場所など	市民（学生等）が自由に使える施設（待つ空間・時間を使える空間）
D 娯楽・レジャー	温泉施設、劇場、映画館、アミューズメント施設、テーマパーク、砂丘体験ができる場、みんなが楽しめる娯楽施設、プラネタリウムなど	映画館、プラネタリウム、天文台、スーパーマーケットなど	スーパーマーケット
E オープンスペース	多目的広場、全天候型イベント広場、緑の空間、芝生広場、多機能コミュニティ広場、用途フリーな多目的施設・広場、自由度の高い広場など	緑地公園、多目的広場、イベント広場、子ども遊園（公園）、芝生広場、市民花壇、朝市・フリーマーケットができる広場など	イベント広場（出店しやすい工夫をした市場）、子ども遊園（公園）、交流の場

青字：整理・統合した上で、アンケートの活用策の候補とすべきと考えるもの

赤字：アンケートの活用策の候補としないと考えるもの

**これまで市民参加により議論された活用策のうち、整理・統合した上でアンケートの活用策の候補とすべきと考えるもの、またはアンケートの活用策の候補としないと考えるものの整理**

5つの求められる機能を基に具体的な活用策について、市民ワークショップや専門家委員会等で様々な提案がされた活用策に対する本市の考え方を次のとおり整理する。

**【整理・統合した上で、アンケートの活用策の候補とすべきと考えるもの】**

5つの機能	掲載する活用策	整理・統合した上で、アンケートの活用策の候補とすべきと考えるもの
A 教育・学習・ 芸術・文化	小学校統廃合用地	小学校
	カルチャーセンター	カルチャースクール
	学生交流施設	学習広場
	美術館	ミュージアム
	多目的ホール	多機能ホール、文化的多目的ホール、複合文化施設
	音楽ホール	コンサートホール
	市民ギャラリー	アート
	こども教育施設	子ども文庫、子ども喫茶、童画の展示
B 医療・福祉・ 健康増進		
C 憩いの場・ コミュニティ	自由出でできる屋内スペース	屋内でこどもが遊べるスペース
	イベント・行事・交流会場	イベントホール
D 娯楽・ レジャー	テーマパーク	砂丘体験ができる場
	アミューズメント施設	みんなが集える娯楽施設
E オープン スペース	緑地公園	こども遊園（公園）、緑の空間、芝生広場
	多目的広場	多機能コミュニティ広場、用途フリーな多目的施設・広場、市民花壇、自由度の高い広場
	イベント広場	朝市・フリーマーケットができる広場

**【アンケートの活用策の候補としないと考えるもの】**

5つの機能	活用策	現状や方針
A 教育・学習・ 芸術・文化	①図書館	①市立図書館が約1kmの位置にあり現段階では新たに整備する計画はない。新たに整備する場合はファシリティマネジメントの観点から現図書館の移設となる。
	②専門学校	②市としての設置は検討していない。
	③観光コンベンション施設・物産館	③「観光・コンベンション機能」は、5つの機能に該当しないため。
	④団体の事務局・練習場	④施設の利用方法の一例であるため。
B 医療・福祉・ 健康増進	-	-
C 憩いの場・ コミュニティ	⑤公民館	⑤既存施設を活用する計画のため。
	⑥福祉・高齢者施設、高齢者施設、高齢者施設、高齢者施設、高齢者施設	⑥「活用の仕方・テーマ」であるため。
D 娯楽・ レジャー	⑦プラネタリウム	⑦、⑧「さびアストロパーク」の機能と重複するため。
	⑧天文台	
	⑨スーパーマーケット	⑨「生活基盤充実機能」は、5つの機能に該当しないため。
E オープン スペース	⑩交流の場	⑩「活用の仕方・テーマ」であるため。

## 鳥取市旧本庁舎・第二庁舎跡地活用に関する アンケート調査について（ご協力のお願い）

市民のみなさまには、日頃から鳥取市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

鳥取市では、現在、旧本庁舎・第二庁舎跡地の活用について検討しているところです。旧本庁舎・第二庁舎が立地していた場所は、長年多くの方々に利用され、親しまれてきた全市民の貴重な財産であると考えています。そのため、本市では、跡地の活用策を検討するにあたり、できる限り多くの方々から幅広くご意見をお伺いすることとし、昨年度に引き続き、「アンケート調査」を実施いたします。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月

鳥取市長 深澤 義彦

### ご記入にあたって

#### 【アンケートの目的】

本アンケートは、旧本庁舎・第二庁舎跡地の活用策について、市民のみなさまから幅広くご意見を伺う目的で実施します。

#### 【アンケートの調査対象】

この調査は、鳥取市内にお住まいの満18歳以上の方、2,000人を無作為に抽出し、ご協力をお願いしています。

#### 【アンケートの活用方法】

お答えいただいたご意見を参考にさせていただき、本市の活性化につながる活用策となるよう、丁寧に検討していきたいと考えます。

ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理し、個人が特定されることは一切ございません。ぜひ、率直なご意見をお聞かせください。

#### 【アンケートの調査票】

- ・ご回答は、封筒のあて名のご本人がご自分の考えでお答えください。
- ・この調査票は、お名前・ご住所を記入する必要はありません。
- ・アンケートをご記入いただく前に、別冊「みんなで一緒に考えましょう 鳥取市の将来」をお読みください。

#### 【アンケート調査結果の返送について】

- ・ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、8月16日(月)までに、ご投函ください（切手は不要です）。

※ご不明な点がございましたら、下記担当までお問合せください。

鳥取市企画推進部政策企画課【担当：平田】

〒680-8571 鳥取市幸町7 1番地

☎：0857-30-8012 FAX：0857-20-3040

E-mail：kikaku@city.tottori.lg.jp

鳥取市旧本庁舎・第二庁舎跡地活用に関するアンケート調査票

問1. あなたご自身についておたずねします。(1)・(2)の該当する番号に○を付けてください。

(1) あなたの年齢はおいくつですか？

1	10代	2	20代	3	30代	4	40代
5	50代	6	60代	7	70代	8	80代以上

(2) あなたがお住まいの地域はどちらですか？

1	鳥取地域	2	国府地域	3	福部地域	4	河原地域
5	用瀬地域	6	佐治地域	7	気高地域	8	鹿野地域
9	青谷地域						

問2. 跡地の活用策についてお尋ねします。

(1) 次の内、あなたが充実させたいと思う機能に、最も近いものをA～Eのうち1つか2つだけ選び、該当する番号に○を付けてください。  
 また、その機能を充実させるため、どのような活用をしたいか、別冊「みんなで一緒に考えましょう 鳥取市の将来～旧本庁舎等跡地の活用～」のP2「これまで市民参画等により議論された活用策」を参考に、ご記入ください。  
 ※活用策の一例ですので、記載されていない活用策でも結構です。

<ul style="list-style-type: none"> <li>A 教育・学習・芸術・文化機能</li> <li>E 医療・福祉・健康増進機能</li> <li>C 憩いの場・コミュニティ機能</li> <li>D 娯楽・レジャー機能</li> <li>E オープンスペース機能</li> </ul>	}	<p>この中から1つか2つ 選んで○を付けて ください</p>
---	---	---

を充実するため、

《活用策・自由記載》





別冊P2「これまで市民参画等により議論された活用策」を参考に、ご記入ください。

として活用します。

(2) あなたが、(1)の機能や活用策とされた理由をご記入ください。

問3. 跡地の活用方法（イメージ）についてお尋ねします。

(1) あなたが選ばれた機能や活用策に近いイメージ図を、1～3のうち、どれか1つだけ選び、該当するものに○を付けてください。

	<p>1 建物を中心として、一部、広場とする。</p> 
<p>2 広場を中心として、一部、建物とする。</p> 	<p>3 広場を中心とする。</p> 

※この図はイメージであり、実際の配置・規模等とは異なります。

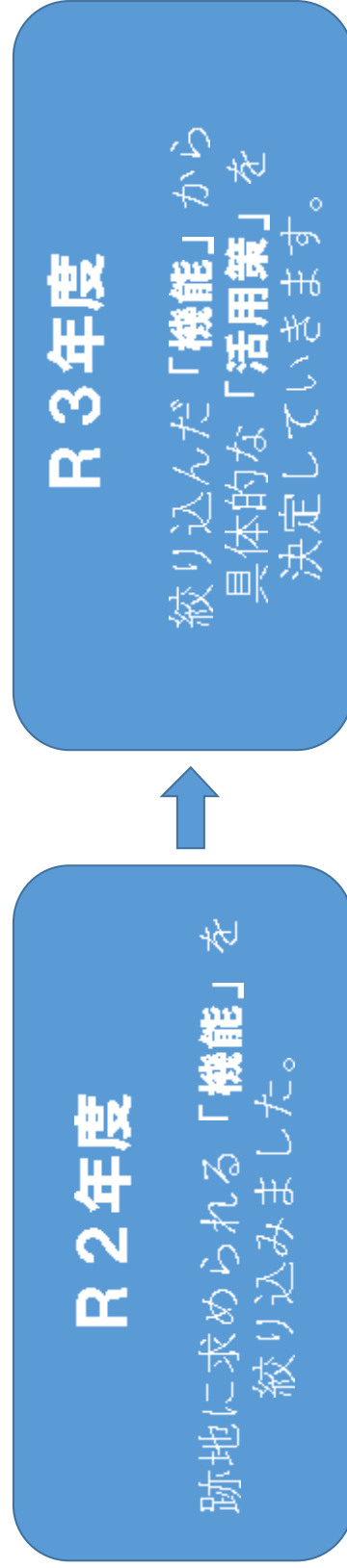
ご協力ありがとうございました。ご記入いただいたこの調査票は、  
返信用封筒にて令和3年8月16日（月）までに返送（投函）をお願いします。



# みんなで一緒に考えましょう 鳥取市の将来 ～旧本庁舎等跡地の活用～

市民アンケートにご協力をお願いします。

- 56年もの長きにわたり、市民の皆様に親しまれてきた鳥取市役所旧本庁舎は、老朽化が進んでいるため、現在、解体をしています。
- 旧本庁舎・第二庁舎が立地していた場所は、長年多くの方々にご利用され、親しまれてきた全市民の貴重な財産であるとと考えています。そのため、本市では、跡地の活用策を検討するにあたり、できる限り多くの方々から幅広くご意見をお伺いすることとし、このたび、「アンケート調査」を実施いたします。
- お答えいただいたご意見を参考にさせていただき、本市の活性化につながる活用策となるよう、丁寧に検討していきたくと考えていますので、ご協力をお願いします。
- なお、本資料は、求められる機能や活用策を検討していただくにあたり、「求められる機能の絞り込みの経緯」、「これまで市民参画等により議論された活用策」、「跡地の概要」等を取りまとめられていますので、ご参考にしていただきますようお願いいたします。



鳥取市  
令和3年7月



# 「求められる機能」の絞り込みの経緯

令和2年度から実施した市民参画による、各種団体との意見交換、市民ワークショップ（※1）、ストリートミーティング（※2）等の議論を通じて、本庁舎跡地に求められる機能を5つに絞り込みました。本アンケート調査では、この5つの機能を基に、あなたのお考えを聞かせて下さい。



市民ワークショップ（※1）：市民参画により跡地活用策を話し合う手法のこと。参加者が主役になって、班員と交流・創造しながら議論し取りまとめる場  
 ストリートミーティング（※2）：地方創生を担う若者と、市民が直接対話し、その意見や要望を施策に反映させる仕組み  
 専門家委員会（※3）：跡地活用策について、専門的見地から適切な意見・提言を行う。学識経験者6名で構成。

## これまで市民参画等により議論された活用策

5つの求められる機能を基に具体的な活用策について、市民ワークショップや専門家委員会等で様々な提案がされ、てきました。最終的に、市民ワークショップや専門家委員会では下表の右列のように取りまとめられました。これらを参考にしながら、『あなたが必要と思う活用策』を、ご提案ください。

機能	R2・3年度 市民ワークショップやアンケート等 で議論された活用策	R3年度 今まで議論された活用策の取りまとめ (防災・減災機能はいかなる活用を行う際も取り入れることとする。)
<b>A</b> 教育・学習・ 芸術・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合防災教育研修センター</li> <li>若者の学習拠点</li> <li>カルチャースセンター</li> <li>美術館</li> <li>市民ギャラリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校統廃合用地</li> <li>若者の学習拠点</li> <li>環境・防災学習の場</li> <li>市営駐車場に併設した避難所生活体験施設</li> <li>美術館（展示機能、市ゆかりの文化人をたたえる機能等）</li> <li>多目的ホール</li> <li>市民ギャラリー</li> <li>歴史・文化の発信の場</li> </ul>
<b>B</b> 医療・福祉・ 健康増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援の場所</li> <li>民間活力を活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>病院もある複合施設</li> <li>健康増進スポーツ施設</li> </ul> </li> <li>など</li> </ul>	—
<b>C</b> 憩いの場・ コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティセンター</li> <li>高齢者向けサロン</li> <li>イベント・行事・交流会場</li> <li>地域食堂（子ども食堂）</li> <li>市民（学生等）が自由に使える施設 （待つ空間・時間を使える空間）</li> <li>自由に出入りできる屋内スペース など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民（学生等）が自由に使える施設 （待つ空間・時間を使える空間）</li> <li>緑地公園に併設した屋内施設（情報発信施設・ワーケーション施設等）</li> </ul>
<b>D</b> 娯楽・ レジャー	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間活力を活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>温泉施設</li> <li>劇場</li> <li>映画館</li> <li>テーマパーク</li> <li>ミュージアム</li> <li>ズメント施設</li> </ul> </li> <li>など</li> </ul>	—
<b>E</b> オープンス ペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑地公園</li> <li>多目的広場</li> <li>イベント広場</li> <li>全天候型イベント広場 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント広場(出店しやすい工夫をした市場)</li> <li>カフェ併設広場</li> <li>緑地公園</li> <li>庭園</li> <li>大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園</li> <li>体験型防災公園</li> </ul>



## これまでの議論の整理

- ☑本市のにぎわいづくりにつながる活用策とする。
  - ☑利用者が限定されないような活用を図る。
  - ☑市の財政負担を極力少なくする。
  - ☑若者の流出抑制・定住促進につながる利用を図る。
  - ☑いかなる活用を行う際でも、防災・減災機能は取り入れる。
  - ☑既存の施設（機能）がある場合は、棲み分けを考慮する。
  - ☑市民会館は、当面、存続するものとして考える。
  - ☑複合化・多機能化の活用の検討は妨げない。
  - ☑活用の手法（民間活用など）について考慮する必要がある無し。
- （活用手法は、活用策実現にあたり市で判断する。）
- など

## 鳥取市旧本庁舎等跡地について

### 旧本庁舎等跡地の概要



ここは、本府中心市街地（位置し、かつて城下町として栄えた地域）であり、城下町全体の変遷を知るうえで、非常に重要な歴史的背景を残していることが判明する。また、中心市街地活性化基本計画で、「歴史・文化等を有する観光交流、豊かな居住の舞台」をエリアとすることで、本府飛躍発展に貢献する重要な場所である。

### 土地利用規制など

用途地域	本庁舎跡地	第二庁舎跡地
容積率/建蔽率	400/80（一部500/80）	商業地街 400/80（一部500/80）
地区計画	尚徳町地区地区計画※1	—
景観形成重点地区	久松山山系景観形成重点地区※2	—

※1 地区計画により、次の建築物は、建築を制限されています。

- (1) 工場
- (2) ボーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場、バレーボール練習場
- (3) ホテル又は旅館
- (4) 自動車教習所
- (5) 畜舎（1.5㎡を超える）
- (6) マージャン屋、パチンコ屋、射的場、賭博投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの
- (7) 倉庫業を営む倉庫
- (8) 危険物の貯蔵又は処理に供する建築物
- (9) キャバレー、料理店、ナイトクラブ、ダンスホールその他これらに類するもの
- (10) 個室付浴場業に係る公衆浴場 など

※2 景観形成重点地区に指定し、周辺の緑や歴史的建造物等との調和を図る地区と位置付けている。

## 鳥取市の現状や考え方

### 財政の見通しは？

- 本市は、「選択と集中」による財政運営を実施
- 新型コロナウイルス感染症の地域経済への影響等で、厳しい財政運営になることが予想
- 中長期的な展望に立ち、計画的な財政運営を進める

出典：第11次鳥取市総合計画

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
市債残高	770億円	781億円	768億円	721億円
公債費	102億円	60億円	58億円	53億円
市債(借入)	42億円	109億円	60億円	40億円

※平成23年度は一般会計決算、令和3年度は当初予算、以降は財政見通し(以下同じ)市債は一般事業分(国庫財政対策費を除く)

※緊急的な収入減などに対応する基金(貯金)を積み立てます

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
財源基金等	24億円	42億円	60億円	51億円

※不測の事態に備えるための財政調整基金と調整基金の合計残高を50億円以上(令和7年度末)とする

※地域経済の活性化や市民所帯の向上に取り組みます

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
市税収入	239億円	225億円	236億円	236億円

※ファミリーバランス(基礎的財政収支)を黒字化します

※当初予算における市債以外の収入と公債費を除く支出の収支(国庫財政対策費を除く)

【参考】財政規模

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
一般会計(歳出)	868億円	854億円	825億円	808億円
支分補助費	131億円	205億円	211億円	215億円
支分補助費	85億円	133億円	95億円	86億円

※コロナ対策関連歳入を除く(R3:143億円、R7:776億円、R12:8億円)、

歳入費は普通選定事業費と維持補給費の合計

※扶幼費：社会福祉院の一元 生活支援課、福祉、児童福祉部等から支出する経費

### 人口の見通しは？

- 本市の人口は、少子化や転出超過等から、H17年の国勢調査人口20万1,740人をピークに減少傾向
- R7年には18万2,777人、R12年には17万7,621人に減少すると見込む

出典：第11次鳥取市総合計画

項目	平成17年	令和2年	令和7年	令和12年
人口(万人)	201.740	188.717	182.777	177.621

### 公共施設の経営は？

「鳥取市公共施設再配置基本計画」により公共施設経営(ファシリテイマネジメント)に取り組み

目標：40年間(令和36年度)で、施設面積 **約29%削減**

▶複合化・多機能化は？

- 1 施設1機能ではなく、複合化・多機能化
- 拠点性を高め、稼働率・利用率を向上

▶民間活用は？

- 民間資本やノウハウの活用を推進
- 市民・民間事業者からの提案制度等の導入を検討し、公共施設経営に参画しやすい環境づくりに取り組む

## 今後のスケジュール

令和3年  
7月～秋頃

**跡地活用についての市民アンケートの実施**  
何ったご意見を取りまとめ、跡地活用を絞り込んでいきます。

令和3年度中

**跡地活用の比較・検討**  
跡地活用案を比較・検討し、令和3年度中の可能な限り早い時期に一定の方向性を示します。

令和4年度以降

財政状況や社会経済情勢をふまえ、跡地活用を実施します。



市民アンケートへのご協力、  
よろしくお願ひします





## 第8回 日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日 時 令和3年7月15日（木）午前9時～10時25分  
2 場 所 市役所本庁舎7階 第1委員会室  
3 出席者 （1）委員（Web会議1名）  
柳委員長、福山副委員長、齋藤委員、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員  
（2）事務局  
高橋企画推進部長、河井経営統轄監、渡邊次長兼政策企画課長、平田政策企画課長補佐

### 4 内 容

#### ●委員長挨拶

今日は、市民アンケートについて皆様に議論していただきたい。

#### ●委員からの主な意見

##### (1) 市民アンケートについて

- 委員 資料の確認をしたい。資料1の裏面「アンケートの活用策の候補と考えるもの」について、『活用の仕方・テーマ』であるため』と2カ所あるが、この言葉で理解できなかった。
- 事務局 今回、整理したいのは具体的な活用策である。例えば資料2のA、Dと小学校統廃合用地、若者の学習拠点、このような回答をいただきたいと考えている。移住定住に繋がる活用、鳥取ならではというキーワードは、活用の仕方・テーマであり具体的な活用策ではないと判断した。
- 委員 趣旨は想像が立った。カギ括弧があるのでどこかで定義し使われていると思ったが機能でもない。特に定義はないか。
- 事務局 昨年度行ったアンケートの中で、活用の仕方、活用のテーマという言葉を使った。
- 委員 活用策、機能よりさらに大きい部分ということか。IUの交流の場はどうか。
- 事務局 交流の場はWSの中での意見。今回は、具体的な活用策を聞きたいという趣旨。
- 委員 大分、明確になった。「現状と方針」は書き方を替えた方がいい。①②で色が違うのはなぜか。
- 事務局 白の①・③・④は、WSで取りまとめられた意見。黒②はこれまでに出了活用策である。
- 委員 それなら記載した方がいい。BはWSで出なかったがなぜ復活したのか理由が必要。砂丘を体験できるテーマパークはやめた方がいい。この辺どう整理されたのか。Aの小学校統廃合用地はいい。カルチャーセンターと学生交流施設はどう違うのか。多目的ホールと音楽ホールはどう違うのか。市民会館が隣接しているので図書館と同じ整理ができないか。市民ギャラリーと美術館はどう違うのか。学生交流施設と子ども教育施設はどう違うのか。学習と遊ぶ場ならそこを明確にすべき。子ども文庫は図書館に近いが図書館は外れている。もう少し整理できる。市民ギャラリーは市民会館で展示できる。子どもの遊ぶスペースと子ども教育施設、イベントホールと多目的ホールはどう違うのか。もう少し整理できる。BとDは書かなくていい。市は整備しないけど、民間が整備するなら受け入れる。そうなるとAとCは絞って質問できる。
- 事務局 質問の整理をしたい。教育・学習、芸術・文化機能の中での、例えば学生交流施設と子ども教育施設の違いについて、我々としては、少し対象の年代的なものが違う認識。子ども施設は低学年、学生交流施設は学生が集まって勉強する認識を持っている。
- 委員 理解はできる。しかし年齢層を分ける必要はあるのか。多世代と言いつながら公共施設は年齢層を分けているものが多い。青少年施設、高齢者施設等あるが対象年齢層での違いはなくした方がいいと考える。
- 事務局 意見は、確かにその通り。我々はいただいた意見をまとめる中で、子どもの施設と学生の施設の傾向が顕著に見えてきたので、選択的にした。意見は確かにその通りなので委員の皆様の見解をいただきたい。多目的ホールと音楽ホールの違い。音楽ホールは、音楽専用のホール。多

目的ホールは、シンポジウム、コンサートでも使いたい意見があり分けた。美術館と市民ギャラリーは、美術館と市民の皆様が持ち込んで展示会を開くような活用、Cの憩いの場、イベントホールは、何も無いところで講演等いろんな活用ができ、いろんな活用ができるような幅広いものだったので分けた。もう1点、テーマパークは、砂丘の体験ができる場所をまとめた。

**資料2-3**、民間活力を活用でまとめた。これは、民間活力の活用があれば可能性はあるが、行政が直接やる部分ではないという認識。

- 委員  
■事務局 美術館、ホールは整備するというのでいいか。  
市民会館が隣にある。市民会館の耐用年数等を考慮しながら建設ということになる。同じものを同じ場所につくるものではない。ファシリティマネージメントの観点で、市内の施設の中で、整理・統合、全体を見ながら建築・建設となるが、時期はすぐすぐというわけにはならない。
- 委員  
■事務局 市の状況を入れていくといいと思っている。  
補足する。今、委員からいただいたような意見を、他の皆様からもいただき、例えば統合する方がいいとか、逆に分けた方がいい等の意見をいただいて、市で検討し、最終案としたいと思っているので意見をいただければ大変ありがたい。委員の先ほどの発言を確認したい。Aについて他の聞き方ができると言われたが、アンケートのやり方についてのご提案か。具体的にどのような聞き方が教えていただきたい。
- 委員 機能が3つくらいに絞ればAの中で活用策を聞くことができる。今は5つまとめて1つか2つ選ぶことになっている。このアンケート結果をどう使うのかわからない。例えばAについて必要な活用策を聞く。項目の整理ができればもう少し具体的に聞くことができる。
- 委員  
■事務局 BとDを復活させた背景は。  
このたびのWSの人数が22名で少なかった。WSだけの意見をまとめるということが、市全体の意見をまとめたことになるのか疑問がある。今までいただいたアンケート等、様々な議論の中で活用策をもう一度見ながらアンケートを作ったらどうだろうという意見をいただいたと思っている。その中で、今までいただいた意見、AからEの5つの機能をもう一度ピックアップしてアンケートに反映させた。言われたように、令和3年度のWSでの取りまとめ、専門家委員会からの意見では、B・Dの機能はないが、令和2年度から始めた様々な意見交換の中では、BとDの意見もあったので掲載した上でのアンケートを考えている。皆様の意見をいただきながら復活させたと考えている。
- 委員  
■事務局 **資料1**は市民アンケートに可封せずホームページで周知か。  
**資料1**はHPで公表するので誰でも見るができる。ただ、アンケートの中には入れず、専門家委員会と議論、精査する資料。
- 委員 **資料1**はホームページに載せて、理解を促進するために使用するという位置付け。
- 委員 **資料2**の活用策は自由記述である。自由記述をする際に、**資料2-3**に書いてある内容をアンケートに答える方が見て、「なるほどこういう案がありそうだな。自分だったらこういう案にするかな。」と、自由に書いていただくということ。今回、まさに活用策を絞り込んでいくことが目的だとすると、数が集計できた方が効率的。せっかくこの項目は市としてはやらないと整理しているのであれば、自由記述より選択式がいいと思った。どちらがいいのか今すぐに判断はつかないが、やるのであればそこまでやってもいいと思った。**資料2-2**裏面。すごくわかりやすくいいと思った。これは、市の方針として、今後40年間で施設面積29%削減する、建物を建てるよりできるだけオープンスペースを活用していこうという意思の表れだと思ったが、特にメッセージとして書かなくてもいいか。
- 事務局 活用策を絞り込むには、自由記載か選択式か専門家委員会の意見を伺いながらやっていきたい。記載されたい方はおられるのかなということでもこういう形で提案している、ファシリティマネージメントの考え方は、**資料2-3**P4に書いている。
- 委員 選択式にしておいて、その他で自由記載を記載するやり方もあるので検討してほしい。



- 委員 **資料1**、「アンケートの候補にしない」という考え方は大事なところ。前回のアンケートの際も申し上げたが、住民の中でも何が足りていないのか分かる。既存の行政サービスや既存の施設で、何が足りていないのか、明らかになったと思う。同じホールでもどういう使い方をしたいのか十分に取り込めていない。行政としては、「こういう意味でのホールはいらないと考えています。」ということを確認に打ち出す必要がある。そうすると、「市はそういう意味でのホールはいらないと思っているかもしれないが、私たち市民は、こういう意味でのホールが必要だと思っている。」と。そういうことで、より具体的にどういうホールが欲しいのか、どういう使い方ができるホールが欲しいのか、そういうことが答えてもらえる、そういう意味では必要なかなということになる。初めて市の一定の判断基準が、市民に対して示されるような気がしている。市で足りないものを整理したアンケートになることがふさわしいと思う。1つ提案だが、**資料1**表面は、できれば配布して欲しい。HPで参考に掲載してほしい。それから、アンケートでA～Eの選択制があってもいい。ただし、自由記述のところ、**資料2-1**で候補が挙がっている小学校統廃合用地から、歴史・文化発信の場。ここに番号を付けて聞けば、ある程度、統一的な処理もできるし、具体的にどんなものを望んでいるのか自由記述で把握ができる。自由記述を整理するのも、相手の意図がわからないので大変。市が整理した8つは本人の意思ではっきりする。2・3段階のアンケートのとり方をしてもいい。選択制にすると処理がしやすい、判断基準では、**資料2-3**・4で説明しておく筋が通る。
- 委員 **資料2**と別冊をもう少し機能的に組み合わせたほうがいいということ  
 事務局 市が提案したのは、自由記載になっている。項目も言めて、それでなおかつ足りなければその他ということで、自由に書いていただく余地を残しておく提案。前回の委員会でも、項目を記載する案、それから自由記載の案を出して、前回の意見を踏まえて今回はこういう方向にしてみたが、**資料2-3**のような形で候補を表記するというのであれば、今、委員が言われたような方法も十分あり得ると思う。どちらがいいのかということ、ここで他の委員の意見をいただいて、それを踏まえて最終案にしたいかがかか。
- 委員 今の市の意見に対して何かあるか。アンケート調査票にすべて情報を入れると取捨がつかなくなる。アンケート自体はシンプルにして、別冊と有機的に組み合わせる。アンケートP2の下のスペースを有効に使える。
- 委員 **資料2-3**右欄をこのアンケートで直接聞いてもいいと思っていた。項目は減らして聞くとアンケートのフリーで書く欄が書きやすいし、関連づけて書いてくれる可能性が広がる。全部載せなくても内容を絞って、この中ならどれか、ない場合はどうか、足りなかったらどうかという書き方が答えやすいと思う。
- 委員 **資料1**で、カルチャースクール、こども教育施設、若者の学習拠点等にまとめられている。多目的ホール、美術館、音楽ホールもかなり絞られた。
- 委員 **資料2-3**別冊P2に**資料1**P2の情報を掲載した方がいい。そうでなければ無くなったのかという話になる。そこまで入れて聞くという整理でいいと思う。**資料1**と**資料2**の文言は整理しておくべき。アンケートの設問で「あなたが流石させたい」ではなく、「必要だと思う」ではないか。BとDについては、民間の意向が出てこないとやらないとのことなので、もし本当に必要だと思うなら書いてもらえばいい。オープンスペースについても広場が出てきている。広場については聞く必要がなく基本的に整備する。そこにAとCの機能によって大きさが変わること。オープンスペースを芝生にするか緑地にするか、運動ができる柔らかいものにするか、舗装して駐車場かイベントスペースにするか、聞いていいと思う。AとCについては、音楽ホールなら何人規模等整理すれば、本当に必要かどうか質問できる。AとCは聞いて、BとDはあれは聞くということで整理できる。
- 委員 アンケート調査票は、ここに入れると大変なので、別冊に入れた方がいい。アンケート自体に入れると、どこが終点が分からなくなる。市民が書きやすいように説明を加えた方がいい。

- 委員 **資料2**、イメージを載せるのはわかるが施設の大きさを聞いているだけ、A～Dから矢印を引っ張るような見せ方はどうか、AとC、BとDがセットだと分かりやすい。
- 委員 アンケートの内容を、今の意見のように修正するのはいかかか。
- 委員 アンケートの内容を変える話が出ている。**資料2**、これはアンケートが自由記載なので、その自由記載をするための情報をたくさん盛り込んでいると思う。この委員会での議論が右側で、これまでの情報が左側、それを見ながらいろいろ考えてということ。選択肢になると、キーワードで選ぶことになるので、説明資料の抽出等、大分構造が変わってくるので、もう1回再整理をしないといけないと思う、これから広げるというより、まとめていくつか代表的なものの説明資料を添付する必要がある、アンケートも様式を変えるかどうかは大きい。今のところ選択肢の方が。
- 委員 自由記載は残すとしても、選択肢にするともう少し集約される。市の今後の考え方はどうか。
- 事務局 なかなかまとまらない部分もあると思うが、このたび、施設についてはかなりまとめて示した。例えば、学生交流施設、こども教育施設等、ここまでまとめた上で、さらにまとめるのは難しいと思っている。もう少し意見をいただかないといけないという思い。アンケート様式の変更については、どこまでできるのか、今ここで答えられない。
- 委員 折衷案として、例えばアンケート用紙に別冊P2の右側を選択肢として番号をふって○をしてもらう。数の理論で絞り込むのであればそれが一番早い。アンケート調査票を今から抜本的に変えるのはタイミングとか、時系列で考えると難しい。A・C・Eは活用策を列挙して○をしてもらう。アンケート用紙自体の枠組みをどうするか。
- 委員 自分の意見も、委員長が示したやり方に該当すると思う。自由記載は、機能、具体的な使い方、運営の仕方等の具体的な記述をお願いすれば絞れると思う。
- 委員 **資料1**の「活用策の候補にしないと考えるものも別冊に掲載しては。」との意見もあった。BとDについては、活用例はないが必要だと思うのであれば記載できるよう工夫してはどうか。
- 委員 委員長の意見でいい。できるだけ簡単なアンケートがいい。
- 委員 アンケートの形質は、選択肢でどうか。
- 委員 このタイミングでどこまで絞り込みたいのか、市としてのスタンスにかかってくると思う、WSの参加者が少なかったので、アンケートの自由記載で拾いたいと想像はした。自由回答だけだと集計、分析が大変だと思うので、ある程度、数が拾えるようにした方がいい。
- 委員 委員長の意見でいい。
- 委員 **資料2**の教育・学習・芸術・文化機能の活用策に番号を付していただき、それ以外に意見があれば自由記載。もう一度アンケート調査票を選択肢にし、併せて別冊を整理して委員に見てもらい、候補としなかった活用策を別冊に入れるか、HPに掲載するかであるが、市の方向性としていかかか。
- 事務局 今いただいた意見を基に作り直しをする。**資料1**の活用策の候補としないものの取り扱いについては協議をしたい。ただオープンにし共有をさせていただき、別件で確認したい。今、議論となっている別冊P2のところ、右側が令和3年度、活用策を取りまとめたもので、BとDの活用策がない。左側が今まで出た意見。今回のアンケートの選択肢として記載する項目は右側の列のところを考えればよいか。
- 委員 右列をそのまま使うか、もう少し集約するかを考えていただき、それに番号を付して選択肢にし、○をしてもらうイメージ。
- 委員 **資料2** アンケートの返信について送りっ放しだとダメでいかに回収するかが必要。これだと郵送のみ。下の記載ではFAX、メールが書いてあるので、FAXでもOKとか、メールに写真を添付して送信でもOKとか記載の補足があっても親切だと思う。
- 事務局 悪用することはないと思うが、例えば、コピーをされているんな方がメール添付して送られることもあるかも知れない。無記名なので市としては、無作為抽出2000名に回答をいただくこと

が大切だと思っている。もし万が一、たくさんメールで送られると、どのアンケート用紙が、我々が送ったものかが分からなくなることがあるので、ここは、切手不要の返信用封筒で、回答していただくのがいいと思っている。

- 委員 ここに書いてあるファックスとかメールは、不明な時の問い合わせということか。理解した。
- 委員 2000名を対象とする。400名以上あれば、統計学的には信頼度が高いということだと思う。なるべく市から働きかけをしてたくさん回収していただく。アンケートで、「あなたが充実させたいと思う機能」を、「あなたが鳥取市に必要と思う機能」に変えたら、公共性が増す。もう一度、アンケート、別冊を作成していただき見せていただければと思う。
- 事務局 今日いただいた意見を基にアンケートを再度、作り直す。資料2-1、資料2-2、資料2-3も再度作り直し、まず、委員長に見ていただきたい。確認後、委員の皆様にもう一度送らせていただき、修正の意見をいただき最終案にしたい。
- 委員 私と副委員長の両方に送ってほしい。

## (2) その他

- 事務局 先ほどアンケート修正の提案をいただいた。その後、アンケート調査を行い、アンケートの整理ができれば、専門家委員会を開催しアンケート結果等をお伝えしたい。また、詳細日程が決まったら案内する。
- 委員 昨日のニュースを情報共有する。茨城県で、学校給食センターを新しく作り直したらしい。そこも防災センターとして併用するとのことで、災害時には、給食センターで5000人の食事が提供できるので、一大防災拠点というような新しい試みが始まる。
- 委員 その活用案も専門家委員会の案として、別冊に入れられたらと思う。